

## 第 15 回 SAT 賛助会員交流会開催（9 月 8 日（木））のご案内

つくばサイエンス・アカデミー

第 15 回 SAT 賛助会員交流会を下記の要領で開催します。

賛助会員交流会は SAT を支援して頂いています賛助会員同士および賛助会員とつくばの研究者との交流会です。賛助会員の事業紹介とともにつくばの研究者による研究紹介を行い、賛助会員と研究者との交流による新しい「知の触発」に繋げていくことも目的としています。事業紹介される賛助会員ばかりでなく、多くの賛助会員、個人会員および一般の方の参加をお願い致します。

**申し込み先**：メールで宛先 [academy@epochal.or.jp](mailto:academy@epochal.or.jp) まで、

「第 15 回賛助会員交流会参加」と記載し、①氏名、②所属機関・部署・役職、③連絡先（電話、e-mail）、④懇親会（1,000 円/人 当日徴収）の参加・不参加をお知らせください。

**問い合わせ先**：つくばサイエンス・アカデミー（TEL 029-861-1206）まで

### 記

**日時** 2016 年 9 月 8 日（木） 午後 1 時 15 分～6 時 45 分

**会場** つくば国際会議場 303 室

#### I. 交流会

午後 1 時 15 分～4 時 45 分

##### 1. 開会挨拶

5 分

##### 2. 賛助会員事業紹介（質疑応答含め各 35 分）

計 70 分

① 荒川化学工業株式会社 コーポレート開発部 副部長 筑波研究所長 竹内秀治様

② NEC 中央研究所 IoT デバイス研究所 エキスパート 東口 達様

休憩

10 分

##### 3. つくば研究者講演（質疑応答含め各 35 分）

計 70 分

① 「森林資源「リグニン」で創る日本発の新産業」

森林総合研究所 木材化学研究室長

研究コンソーシアム「SIPリグニン」研究代表

（併任）筑波大学 生命環境系 教授（連携大学院） 山田竜彦様

② 「ウェアラブル技術とバイタルセンシング」

筑波大学 システム情報系 教授 鈴木健嗣様

##### 4. 総合討論

50 分

##### 5. 閉会挨拶

5 分

#### II. 懇親会 交流会終了後（午後 5:00 予定）～6:45

会議場 4 階「サロンレオ」 会費 1000 円

## 【参考資料】

### 事業紹介

#### ① 荒川化学工業株式会社の業務紹介

荒川化学工業株式会社 コーポレート開発部 副部長 筑波研究所長 竹内秀治様

(概要)

当社はロジンに代表される地球に優しい素材と、永年にわたり培ってきた独自の技術を用いて、現在では石油化学や合成高分子化学、ファインケミカル分野へと事業進出を果たし、印刷物や粘着テープなどに使われる製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂などの身近な暮らしに貢献する製品を開発・提供してまいりました。また、世界でオンリーワンの超淡色ロジンを開発するなど、コア技術の強化に努めるとともに、液晶ディスプレイ用のコーティング剤などを開発し、電子材料関連分野の事業にも注力しております。

#### ② NEC 中央研究所 IoT デバイス研究所の事業紹介

NEC 中央研究所 IoT デバイス研究所 エキスパート 東口 達様

(概要)

日本電気 (NEC) は、通信とコンピューティングを通じて、人と地球にやさしい情報社会をイノベーションで実現するグローバルリーディングカンパニーを目指しています。その中で、IoT デバイス研究所は、ICT 技術がサイバー世界で創造する価値を、効果的に実社会へ提供するため、サイバーと実世界の連携を深化させる事をミッションとしています。具体的には、実世界の現象をデータ化するセンシングと、データサイエンスにより作り出された価値を実世界に具現化するアクチュエーション、そして価値創造を支える ICT プラットフォームを中心に、IoT デバイスを支える電源などの周辺環境技術にも取り組んでいます。当日は、より具体的に研究テーマを紹介します。

### 研究紹介

#### ① 森林資源「リグニン」で創る日本発の新産業

森林総合研究所 木材化学研究室長

研究コンソーシアム「SIPリグニン」研究代表

(併任) 筑波大学 生命環境系 教授 (連携大学院) 山田竜彦様

(概要)

植物細胞壁には「リグニン」と総称される物質が含まれ、例えばスギ木材の場合は約3割を占めています。リグニンは多様性の高い天然高分子で、工業材料化の例はあるものの、極めて限定的でした。私たちは、地方創生の観点から国内の森林バイオマスからリグニンを取り出し、工業材料として安定供給するための技術開発を進め、一つの有望なシステムを考案しました。それは、安全性に配慮した現場設置型のシステムで、そこからは、加工

性の高い改質リグニンが製造され、それを用いた様々な製品群が試作されています。ここでは、私達の開発したシステムと、その社会実装を行う研究コンソーシアムの取り組みを中心に紹介します。

## ② ウェアラブル技術とバイタルセンシング

筑波大学 システム情報系 教授 鈴木健嗣様

(概要)

ホームヘルスケアにおいて、様々なバイタルデータを長期的な取得する技術が盛んに研究されています。ここでは、ウェアラブル技術やアンビエント・バイタルセンシングにより、生活の中でバイタルデータを取得する最新の研究動向について紹介します。心電図や運動情報、摂食・嚥下など日常生活動作の中で生体情報を取得するセンサ系、人が接触するインタフェース系、蓄積したデータから健康状態を表示するフィードバック系に関するシステムについて紹介します。